

No. **85** 東京農業大学  
「食と農」の博物館 展示案内

研究室誕生50年・大学院造園学専攻誕生30年記念

Curators for Creating Livable Cities  
NODAI Landscape Design

みどりとの暮らしの舞台演出家  
農大ランドスケープデザイン  
NOW & FUTURE

2019.10.24<sup>Thu</sup> - 2020.4.15<sup>Wed</sup>

会場 | 東京農業大学「食と農」の博物館 企画展示室B

開館時間 | 10:00~17:00(※冬期12~3月は16:30閉館)

休館日 | 月曜日(祝日の場合開館し翌火曜休。但し1/6、2/25は開館)、月末最終火曜日、  
12/25~1/5(冬期休館)、2/26、3/6

企画 | 東京農業大学大学院造園学専攻 ランドスケープデザイン詳論学外展実行委員会

 東京農業大学  
「食と農」の博物館

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 2-4-28  
Tel. 03-5477-4033 / Fax. 03-3439-6528  
URL [www.nodai.ac.jp/syokutonou](http://www.nodai.ac.jp/syokutonou)

## ご挨拶

私は、館長としての仕事とともに、森林総合科学科でこのこを取り扱う研究者として時に山々を歩くのです。林間の急な道を頂上目指して進む行程や頂上からの眼下に広がるその時々景色を眺めることが好きな時間です。

私は、眺める山々が作り出す自然の風景や人間が手を加えて造作した風景などを“landscape”として捉えています。“landscape”は、同じ場所から見たとしても季節や時間、天候、そして見る人の気持ちによっても大きく様相が異なります。この変化こそが“landscape”の魅力ではないでしょうか。

本企画展は、本学において伝統ある造園科学科に脈々として伝わる“農大ランドスケープデザイン”に焦点をあてて企画されたものであり、現代社会における風景のデザインが私たちに心や生活にもたらすものとは何かを科学的に発信するものです。

ある一定の空間をどのように演出するかは、“landscape designer”の計画、設計、管理、運営、改善、地域環境との調和など、多くの要素が複雑に絡み合っって具現化するものなのです。皆さんの生活空間は、どんな眺望ですか？この企画展を機会に多くの皆様が“landscape designer”としてさらに豊かな生活環境を創出していただくことが出来れば幸いです。

本企画展は、会期中にテーマを掲げた部門構成も計画されています。第3部では関東5大学の院生・学生の制作展も企画されていますので大学間での活発な議論の展開が楽しみです。

末筆ではございますが、本展示に際してご協力・ご支援いただいた各位に心からご挨拶申し上げます。

東京農業大学「食と農」の博物館長  
江口文陽

## はじめに

この企画展は、大学院造園学専攻が誕生して30年を迎える2020年を前にし、また、1972年に造園科学科（当時：造園学科）の研究室体制が体系化され「ランドスケープデザイン研究室」の前身である「造園計画第2研究室」が誕生してまもなく50年を迎えるにあたり、東京農業大学におけるランドスケープデザイン教育の近年の「作品」と「教育を支えたデザイナーとその作品」、そしてランドスケープデザイン研究室の活動を通しての「農大と社会とのつながり」を概観し、自然とのかかわりの中で暮らしの舞台としてより質の高い「ランドスケープデザイン」を皆で具現化していくための次なる一歩の節目です。



「ランドスケープデザイン」、つまり風景のデザインは、単に図面を描く設計だけではありません。「人生をデザインする」という言い方もあるように、将来を見据え（計画）、その具現化に向けたプロセス（計画・設計）を経て、さらには実行（管理・運営）していくといった広義のデザインが大切です。デザイナーが描く風景も、より多くの関係者の共感を得られることが重要であり、そのためには現況を把握し、課題解決に向けた具体策を提案する力が求められます。その際、対象とする場所ならではの自然的状況、社会的状況、人文的状況を捉えることで、その場所が唯一無二となり、存在価値が高まっていきます。

少子高齢化、人口減少などにより限界集落や消滅可能性都市が取りざたされる中、そこならではの資源を織り込んだ地域計画、地域デザインを行なうことで経済的基盤も確保しながらも経済的価値だけでは語れない「豊かな」暮らしの場が増えていくこととなります。



上原敬二(1889 - 1981)

## プロローグ

### 農大ランドスケープデザイン演習の現場

会期:2019年10月24日~11月8日

#### 上原敬二が語る「造園」:科学と芸術

「デザイナー?」「なんかカッコばかり」「お絵かきしているだけ?」「絵にかいた餅でしょ」「実際そんなの無理だね」、という言葉も耳にすることが…。一方で一旦受け入れられるとデザイナーも、デザインも大人気になることがなんと多いことか。建築も、文具も、自動車も、ファッション、アーティストも……。

造園科学科の前身である東京高等造園学校の産みの親・上原敬二先生は、『造園学雑誌』(1925年、造園学会)第一巻第一号

の第一論文「造園の真諦と造園教育」の書き出しで、「造園とは何を意味するかについて事新しく述べることの必要性はないが要するに之を約すれば科学の正確なる智識を習得し、藝術の感興と感激とを胸に秘め美意識の命するままに自然界の森羅万象、高山大澤の類を理想化し、或は抽象化し、或は便化して大地の上に築き上げたる一大藝術作品であると言ふも過言ではない。」と述べています。

自然界において生物は、自らが暮らせる環境を選択し、または自らを環境に適合するように形態やシステムを変化させて命をつないできま

した。そこには理にかなった美しさがあり、バイオミメティクス(生物模倣)として様々なデザインにも展開されています。私達が暮らす環境を整えることをねらいとするランドスケープデザインは、自然との語らいの中で培ってきた形態やシステムを読み解きながら、人の手によってバランスを崩した課題に対し、よりよい方向を見出す手立てともいえるでしょう。

プロローグ展示では、芸術的視点をカリキュラムとして継承してきた過去を振り返ります。

#### ◆展示予定

- ・造園科学科、大学院造園学専攻のカリキュラム
- ・「造園総合演習(3年後期必修:地域計画演習)」
- ・「専門特化演習(環境デザイン)(4年必修選択)」
- ・「卒業制作(4年必修)」





## 第1部

# ランドスケープデザイン研究室～提案と実践

会期:2019年11月10日～12月22日



上原敬二先生は、明治神宮の森を造った第一人者として語られ、献木をその樹木に適した環境に配慮しながら植栽し、しかも50年後、100年後、150年後の将来を想定した植栽計画を提示しています。造園科学科研究室は、植物系、工学系、計画系の3分野で構成されていますが、上原先生が造園樹木学の大家でもある造園学において「芸術性」は常に根底に流れているとも言えます。中でも現・ランドスケープデザイン研究室は、1972年に研究室体制が系統化された際、造園計画第2研究室（造園計画第1研究室は、造園史・庭園が主な研究分野）にはじまり、都市緑地計画学研究室をへて現在に至っており、特に近年では、公務員をはじめ大手ゼネコンのランドスケープデザイン系企業、都市開発企業や造園コンサルタントや設計事務所、アトリエ系事務所、建築系設計事務所、そしてデザインを具現化し、管理し、より楽しく利用することをサ

ポートする造園施工会社などに多くの人材を輩出してきています。

ランドスケープデザイン研究室のメインプロジェクトは、夏期に行なわれるフィールドトリップ（調査研究研修。いわゆる合宿）です。これは、毎年、地方へ2泊3日で行向き現地調査および提案を行なうもので、所属の学生は、4月から対象地の現況把握、課題整理、提案をまとめ、夏休み中に行なわれるフィールドトリップにおいて、自らの提案の妥当性を現地で検証、修正、発表を行ないます。一方、管理運営系のプロジェクトとしては、世田谷区立すみれば自然庭園でのイベント企画があり、15年近くにわたり毎月、市民団体の世田谷すみればネット、（一財）世田谷トラストまちづくりとともに庭園の自然を楽しむプログラムの企画運営に携わっています。

第一部では、こうした研究室活動をご紹介します。



- ◆ 展示予定
- ・フィールドトリップ(神戸市港湾部への提案)
  - ・石川町再生プロジェクト  
(造園学会関東支部学生デザインワークショップ)
  - ・須賀川中心市街地再生プロジェクト
  - ・世田谷区立すみれば自然庭園イベント企画
  - ・世田谷区小公園再生プロジェクト
  - ・学生デザインコンペ (IFLA、造園学会、LIXIL)





諏訪湖畔公園



グリーンピア津南中央庭園

## 第2部

### 時代をつなぐランドスケープデザイナー 戸田芳樹&福岡孝則

会期：2020年1月6日～3月8日

農大造園科学科のデザイン教育には多くの、そして様々な分野の教員や実務者が携わってきました。今回の企画展では、実務者として長きにわたり演習や講義に携わっていただいた戸田芳樹氏、そして、米国のランドスケープデザイン教育を受け、米国および独国の第一線のデザイン事務所を経て、現在、本学科で教鞭をとる福岡孝則准教授の2人にフォーカスします。



**戸田芳樹** TODA Yoshiki  
自然と文化をデザインする  
～原風景とデザインの原点～



戸田芳樹氏は、本学造園学科（当時）を1970年に卒業され、2020年で50年になられます。その後東京や京都で庭師の修行、(株)アーバンデザインコンサルタント(代表：黒川紀章)を経て、1980年に現在の(株)戸田芳樹風景計画を設立し、2020年には起業40年を迎えます。1989年に東京農業大学造園大賞受賞、1995年には『修善寺「虹の郷」』で造園学会賞を受賞し、また2005年に開催された国際万国博覧会「愛・地球博」(総合プロデューサー：涌井雅之)では、ランドスケープディレクターとして会

場全体の監修をしています。

2013年に開園した東京・世田谷区二子玉川公園に造られた「帰真園」は、再開発地区に新たに誕生した公園内の本格的日本庭園であり、伝統的庭園技法が随所にみとれます。こうした日本庭園の心と技術を様々なランドスケープデザインに展開する原点は、生まれ故郷の尾道の風景感、そして小津安二郎の「東京物語」との出会いがその後のデザイン哲学に影響しているのです。この展示では、こうした戸田芳樹氏のデザインの原点を掘り下げてみました。



福岡孝則 FUKUOKA Takanori

世界で戦うランドスケープデザイナー

～自然との語りから人の舞台を創出する～

福岡孝則は、東京農業大学大学院造園学専攻を修了後、ペンシルバニア大学大学院を修了(MLA)しました。ペンシルバニア大学といえば、ランドスケーププランニング&デザインの大家イアン・マクハークが、ランドスケープアーキテクチャー学科を設立した由緒ある教育機関です。マクハークの書籍『Design with Nature』は、土地のポテンシャル把握のために地域を格子に区画したグリッドご

とに評価する手法を示した名著です。福岡は、そこで自然を軸足に思考する教育を受け、その後は、Hargreaves Associates (米国)、Gustafson Guthrie Nichol Ltd (米国)、Atelier Dreiseitl GmbH(独国)など、世界的にもトップクラスのランドスケープデザイン事務所で活躍し、現在、自身が主宰する Fd Landscape を通じて、数々のプロジェクトを手がけています。その中のひとつ、

1



1・2) 駐車場が心地よい集いの場となったデザインおよび夜のヨガプログラム (コートヤード HIROO)、3・4) 南町田拠点整備マスタープランおよびイメージ図、5) パース・ウォーターフロントマスタープラン



2



3



4



5

「コートヤード HIROO」は、役目を終えた公務員宿舎のリノベーションにより、ヨガをはじめとする豊かな時を提供するテラスや芝生と建物が一体となった新たなコミュニティ拠点となる豊かな空間を生み出しました。展示では海外をはじめとするプロジェクトを紹介し、これからのランドスケープデザインの意義を探ります。

© Atelier Dreiseitl アトリエ・ドライザイテル

## 第3部

### 日比谷ランドスケープデザイン展

関東5大学修士制作・卒業制作展

会期:2020年3月11日～3月22日

日比谷ランドスケープデザイン展は、例年3月に日比谷公園で2013（平成25）年から開催している関東5大学（東京農業大学、千葉大学、工学院大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学）による修士制作・卒業制作展です。本年度は、本会場での開催となります。期間中には、ゲスト講評者をお招きしたうえで、他大学の教員や院生・学生と議論を交わす公開講評会を開催します。こうして学生時代に培った思考や技術の集大成に対する評価を得ることで、今後、社会で活躍するための足固めの機会としていきます。後半展は、修了・卒業年次生だけでなく在学生の様々な作品を展示します。

## エピローグ

### より素敵な暮らしの舞台づくりにむけて

会期:2020年3月25日～4月15日

#### ◆学びの舞台:NODAIキャンパスプラン

新研究棟がオープンとなる2020年4月。キャンパスの様相は大きく変わっていきます。ランドスケープデザイン研究室では、キャンパスのオープンスペース（建築されていない土地）の将来計画案づくりに協力をさせていただく機会を2018年度に得ました。緑が豊かな世田谷区において、農大は区のままに中心地に位置します。自然科学の総合大学である東京農業大学にとって「自然」は全ての研究の原点であり、また、研究者にとって様々な発想の源になり、そして、四季の移ろいは大学関係者のみならず地域の方々にも心身を整える効果が期待できます。模型や図面を見ながら、将来の魅力的なキャンパスにむけての皆さんのアイデアをいただけますか。

#### ◆世田谷区小公園再生プロジェクト

市街地がひろがる世田谷区において、また、財源が減少していく時代において新たに公園をつくることは、なかなか難しいことです。こうした中、既にある公園を今の時代に合わせてリニューアルしていくことは、大切なことであります。ランドスケープデザイン研究室は、世田谷区との連携でその方向性を検討するプロジェクトを行っています。展示およびワークショッ

プを通じて多くの方々の想いを受け止めていきたいと思えます。

#### ◆将来にむけて

デザインは、形・色・素材の美しさだけでなく、使い勝手の良さといった機能が備わっていることが大切です。ランドスケープデザインは、人々が暮らす舞台づくりとも言えますが、それは、個人の空間から公共の空間、小規模なところから大規模なものまで様々です。地球環境への配慮、真の豊かさの実現が大切な時代において、これまでの長い時間の中で築きあげられた暮らし方を大切にしながらも、その土地の魅力を引き出していくことが唯一無二の独自性のある地域づくりにつながっていきます。ランドスケープデザイン展を通じて皆さんの人生がより豊かになっていくことを考え、行動するきっかけになれば幸いです。

#### 展示替えによる作業日

11/9（土）、12/24（火）、3/10（火）、3/24（火）は展示替え作業のため展示をご覧いただくことが出来ません。予めご了承ください。

### 展示関連イベント

- 講演会「ランドスケープをデザインする～仏蘭西留学で見た「暮らし」の風景～」  
講師:阿部伸太(東京農業大学 造園科学科 准教授)  
日時:2019年11月10日(日) 13:30～15:00  
定員:30名(聴講自由)
- ワークショップ「世田谷区ちっちゃな公園こんなどお?」  
進行:阿部伸太(東京農業大学 造園科学科 准教授)  
コーディネーター:福岡孝則(東京農業大学 造園科学科 准教授)  
日時:2019年12月14日(土)13:00～15:30  
定員:30名(要申込)
- トークセッション「自然と文化を織り込む～尾道からはじまるデザインの原風景～」  
ゲスト:戸田芳樹(戸田芳樹風景計画 代表取締役)  
聞き手:福岡孝則(東京農業大学 造園科学科 准教授)  
日時:2020年2月1日(土)14:30～16:30  
定員:30名(要申込)
- 講評会「日比谷ランドスケープデザイン展2020 公開講評会」  
日時:2020年3月14日(土)13:00～17:00 聴講自由
- 講評会「関東5大学学生作品公開講評会」  
日時:2020年3月21日(土)13:00～17:00 聴講自由
- 講演会「グリーンインフラ時代のサードプレイス」  
日時:2020年3月28日(土)13:30～15:30(仮)  
講師:福岡孝則  
(東京農業大学 造園科学科 准教授/Fd Landscape 主宰)

※いずれも会場は「食と農」の博物館1階映像コーナー  
※詳細はホームページをご確認ください。  
<https://www.nodai.ac.jp/syokutonou/>

